

事業所における自己評価結果（公表）

公表:令和 5年 3月 31日

事業所名 SteadyStep

		チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	改善目標、工夫している点など
体制 整	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7			活動内容により、より広く使えるよう工夫し、死角が少ないので常に職員見守り安全確保して活動している。
	②	職員の配置数は適切である	6	1		職員1名に利用者2名を配置し、行事等がある場合は、それ以上の配置をしています。
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	7			トイレに多少の段差があるが、概ねバリアフリー化されている。
業 務 改 善	④	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	6	1		職員会議に参加できない時があり、議事録で気になる・わからない点などは聞くように心がけている。業務終了後にスタッフ間で改善に向けて話し合っている。
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7			自己評価の結果を全員で共有し、改善点などを話し合い支援の質の向上に役立っている。
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7			HPに掲載
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1		6	第三者委員会設置を検討している。
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7			個人及び全体研修受講ができる体制を実施している。
支 援 の 質 の 提 高	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	7			半年ごとにモニタリングを行い支援会議で長・短期目標や支援目標、支援内容を検討し、保護者面談で要望や課題と感じている事などお聞きしてチームで立案している。
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7			共有しているアセスメントツールを使用し、子どもの現在の状況、課題を整理し計画を作成している。
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っている	7			季節に合わせたプログラム案を全職員で提案し、職員会議等で検討し実施している。
	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7			職員会議等で、全職員がプログラム案を提案・検討し固定化しないように工夫している。
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	7			利用者の下校時間に合わせて随時変更（適切なプログラムに）
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	7			個々に月毎にプログラムを立案し、毎月の職員会議等で検討し作成している。
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の内容や役割分担について確認している	5	2		口頭での打ち合わせと併せて送迎表を作成し、当日の担当者名、注意事項・プログラム内容等を明記理解共有している。
	⑯	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7			終礼で支援内の振り返り、状況等報告している。
	⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7			業務日報にその日担当した利用者に関してできたこと、できなかったこと、申し送りなど記入している。

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
連携関係	⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等 デイサービス計画の見直しの必要性を判断 している	7			職員、保護者、関係機関でモニタリングを行い、サービ ス計画の見直しを行っている。
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合 わせて支援を行っている	7			個別、集団活動内容を月1で見直しプランニングしてい る。
	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者 会議にその子どもの状況に精通した最も ふさわしい者が参画している	7			相談支援事業所を利用しているケースが稀
	㉑	学校との情報共有（年間計画・行事予定 等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、 連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時 の連絡）を適切に行っている	6	1		送迎時に担任の先生や補助の先生と様子、トラブル、 学習について情報を共有 年間計画行事等については定期的に書面で情報を共有
	㉒	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合 は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	3		4	受け入れてない。
	㉓	就学前に利用していた保育所や幼稚園、 認定こども園、児童発達支援事業所等との 間で情報共有と相互理解に努めている	7			書面にて保護者から提供されている。
	㉔	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所 から障害福祉サービス事業所等へ移行する 場合、それまでの支援内容等の情報を提供 する等している	2	1	4	該当者なし
	㉕	児童発達支援センターや発達障害者支援 センター等の専門機関と連携し、助言や研修 を受けている	7			定期的に会議やメール、電話での情報交換・共有して いるが、一部でしかなく支援会議等の開催を依頼して いる。
	㉖	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害 のない子どもと活動する機会がある	7			公共の施設を利用するときに交流をすることがある。
	㉗	（地域自立支援）協議会等へ積極的に 参加している	7			月1程度のオンライン会議に参加
	㉘	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、 子どもの発達の状況や課題について共通理解 を持っている	7			連絡帳に1日の様子、状況活動内容を記入し確認して いただいている。 送迎時にも口頭でも伝えている。
㉙	保護者の対応力の向上を図る観点から、 保護者に対してペアレント・トレーニング等の 支援を行っている	7			困り事、相談等について面談や電話等で個別に対応	
明へ 責の 任説	⑳	運営規程、支援の内容、利用者負担等 について丁寧な説明を行っている	7			契約時に書面で説明しお渡ししている。利用者負担、 支援内容については月ごとに書面でお渡ししている。
	㉑	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に 適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7			面談時や日々の送迎、電話相談等を随時行っている。
	㉒	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を 開催する等により、保護者同士の連携を支援 している	1	1	5	プランとしてはあるが、コロナ等により実施できずにい る。

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
	③③	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	7			月1回の職員会議で検証。苦情委員会(マニュアル)設置済。苦情の申し出があった場合、状況確認後速やかに保護者に対応している。
	③④	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7			プログラム表を月1で配布している。インスタグラムでも随時発信している。
	③⑤	個人情報に十分注意している	7			鍵のかかる書庫に収納し、退社時責任者が施錠。申し出があれば開示を行っている。
	③⑥	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7			理解できる言葉を選び、ジェスチャー等を加えながら伝えている。
	③⑦	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		2	5	コロナ対策の為行っていない。
等 の 対	③⑧	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	7			月1の研修のテーマに組み込んでいる。口頭にて書面で説明マニュアル策定済み
	③⑨	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7			年2、3回実施している。消防署に訓練の届を提出
	④⑩	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7			年間の研修計画に組み込んでいる。
	④⑪	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	7			契約時に口頭で説明し書面でお渡ししている。事業所の担当者、地域の相談窓口、担当部所が明記されているポスターを玄関等に掲示している。
	④⑫	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	3	4		指示書は提出されていないが、保護者からの指示の元対応している。
	④⑬	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7			月1の職員会議で検証 ヒヤリハット事例集を作成に加え、職員会議で話し合っている。

この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。